

一般社団法人 日本生態学会

2023 年度 第 3 回通常理事会

1. 日時：2023 年 12 月 16 日（土）13:00～16:56
2. 場所：ビジョンセンター田町 C 会議室およびオンライン（zoom）
3. 出席者：
 - ・ 理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）
（理事）宮下直、北島薫、立田晴記、赤坂宗光、辻かおる、久米篤、
木村恵、村岡裕由、吉田丈人、辻和希、鏡味麻衣子、日浦勉、
酒井章子、工藤岳、小泉逸郎、鈴木牧、中野伸一、和田直也
 - ・ 監事：瀧本岳、大塚俊之
 - ・ オブザーバー：鈴木準一郎、永光輝義、小池文人、半場祐子
 - ・ 事務局：鈴木晶子

4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 18 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い宮下直会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、宮下直会長、瀧本岳監事、大塚俊之監事とし、議事録作成者は立田晴記専務理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・ 資料 1 に基づいて立田専務理事より庶務 7 件、辻会計担当理事より会計 8 件の報告と 2023 年の収支状況について報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
 - ・ 資料 2 に基づいて鈴木編集長より ER 論文賞審査状況、2023 年編集状況、特集の出版・進捗状況、ESJ71 各種集会開催予定について報告があった。
3. 日本生態学会誌編集委員会報告
 - ・ 資料 3 に基づいて永光編集長より編集状況については昨年と比較して投稿数が回復していること、特集を総説のカテゴリーとしたため特集がこれまでに比べて増加しているとの報告があった。
4. 保全生態学研究編集委員会報告
 - ・ 資料 4 に基づいて小池編集長より 2023 年 11 月発刊号が遅れて刊行さ

れることと、編集状況について投稿数は昨年とほぼ同じであることが報告された。

5. 出版状況報告

- ・ 資料 5 に基づいて久米出版担当理事より PSB 誌を対象とした科研費研究成果公開促進費（OA 刊行支援）を申請したこと、Ecological Research の OA 出版補助に 5 件の利用があったこと、イギリス生態学会 2023 の英文 3 誌プロモーションを行ったこと、2022 Impact Factor の傾向について報告があった。
- ・ 瀧本監事よりイギリス生態学会 2023 のプロモーション活動について生態学会・ER 共に現地では知名度が低いものの、日本と協力したい、日本の生態学会に参加したいとブースを訪れる人が多かったとの報告があった。

6. 大会報告

- ・ 資料 6 に基づいて鏡味理事より ESJ71（横浜）準備状況について、発表申込状況、大会日程、オンサイト会場の準備状況について報告があった。
- ・ 小泉理事より ESJ72（札幌）準備状況について、会場を全館借りており対面中心での開催を検討していること、大会行事として懇親会は開催しないこと等の報告があった。

7. 各種委員会・TF 報告

<将来計画専門委員会>

- ・ 資料 7 に基づいて辻和希理事よりメンター制度について ESJ71（横浜）では初めて現地で実施すること、日本学術振興会賞および育志賞に生態学会からも女性を積極的に推薦するように依頼があった。

<自然保護専門委員会>

- ・ 資料 7 に基づいて和田理事より次期委員の選出が進んでいること、北海道地区会からの意見書提出を支援したこと、今後も要望書作成を検討しているとの報告があった。

<キャリア支援専門委員会>

- ・ 資料 7 に基づいて木村理事より男女共同参画学協会シンポに参加したこと、ESJ71（横浜）でのフォーラム企画・託児支援・CPD 単位発行の準備状況について報告があった。

<男女共同参画学協会連絡会 TF>

- ・ 資料 7 に基づいて半場委員長より総会および次期の第 1 回運営委員会を開催したこと、シンポジウム報告、今後の予定の報告があった
- ・ 1 年間の幹事学会任期が終了し、半場委員長より生態学会の協力に対して謝辞があった。

8. 学会賞選考委員会報告

<生態学会賞・宮地賞・大島賞・鈴木賞選考委員会>

- ・ 資料 8 に基づいて辻かおる理事より、特に生態学会賞の審査で時間を要したことが報告された。

<自然史研究振興賞選考委員会>

- ・ 資料 8 に基づいて工藤理事より 15 名の応募があり研究経歴や内容も多様であったこと、設立コンセプトの「これまで評価されにくい研究を地道に続けてきた人への表彰」や他の賞との差別化等に難しさがあったとの報告があった。
- ・ 今回の課題の改善案について、応募書類記載事項の工夫や賞コンセプトを会長メッセージ発信する等、選考委員会が検討し理事会に提案することになった。

9. 次々期会長および次期代議員選挙報告

- ・ 資料 9 に基づいて宮下会長より選挙結果と、当選者より選挙名簿が 50 音順となっていることで先に記載されている会員の当選率が高いのではないかとの意見があったと報告があった。
- ・ 名簿の並び順については次回の選挙にて変更を見据えて検討することになった。

10. INTECOL 報告

- ・ 村岡理事より INTECOL 事務局をイギリス生態学会でサポートすることになったが登録を移すことに時間を要するため運営が中断していること、2023 年も会費の支払いは発生しないこと、次回大会は 2026 年 8 月に実施される予定との報告があった。

11. 日本学術会議報告

- ・ 北島副会長より第 26 期が 10 月に始まり、独立法人化等あり方について

議論されていること、生態科学分科会では生態学会と連携していこうとしていることが報告された。

1 2. 生物科学学会連合報告

- ・ 宮下会長より 3 年ほど前から生物多様性関連のシンポを行っており、2024 年 1 月にシンポジウム「現代のナチュラルヒストリー」を開催すること、科研費増額の要望書提案を準備していること、高校教科書の重要用語を再検討する活動があることが報告された。

1 3. その他（韓国・国立生態院の 10 周年記念式典シンポジウム報告）

- ・ 中野理事より 11 月上旬に韓国・国立生態院の 10 周年記念式典に招待され、国立生態院が 10 年間の長期生態系モニタリングに力を入れていくこと、日本との連携強化を希望していることが報告された、

審議事項

第 1 号議案 日本生態学会功労賞について

- ・ 資料 10 に基づいて宮下会長より説明があり、理事から推薦のあった露崎史朗氏と中静透氏を理事会推薦の功労賞候補者とするのが全会一致で承認された。

第 2 号議案 委員の承認について

- ・ 資料 2 に基づいて鈴木 ER 編集長より任期満了に伴う新規編集委員長および編集委員の提案があり、全会一致で承認された。
- ・ 資料 4 に基づいて小池保全誌編集長より 2024 年 1 月からの編集長・編集委員体制の提案があり、全会一致で承認された。
- ・ 資料 11 に基づいて宮下会長より生態学教育専門委員会の 2024 年 4 月からの委員長・委員体制の提案があり、全会一致で承認された。

第 3 号議案 日本生態学会活動方針（アジェンダ）について

- ・ 資料 12 に基づいて立田専務理事より説明があり議論した。
- ・ 従来の項目「次世代の育成」「国際化」「社会貢献」「他分野との横断的交流」に新規で「オープンサイエンスの推進」「ダイバーシティとインクルージョン」を加えることになった。
- ・ 議論した意見をもとに執行部で検討・再提案することになった。
- ・ 継続審議とし次回理事会および 2024 年 3 月の総会にて決議を目指すことになった。

第4号議案 ダイバーシティ宣言について

- ・ 資料13に基づいて立田専務理事より説明があり議論した。
- ・ 議論した意見をもとにキャリア支援専門委員会と執行部で文案を検討・再提案することになった。
- ・ 継続審議とし次回理事会および2024年3月の総会にて決議を目指すことになった。

第5号議案 ESJ71 承認事項（公開講演会共催）

- ・ 資料6に基づいてESJ71の公開講演会について鏡味理事より説明があり、「野生生物と社会」学会と共催で行うことが全会一致で承認された。

第6号議案 3英文誌について

- ・ 資料5に基づいて久米出版担当理事より今後の対応について説明があり、2024年から英文3誌について現在の予算範囲で同等の出版補助制度を導入すること、PSB誌のOA化を2026年から開始する準備を進めることが全会一致で承認された。
- ・ 生態学会大会で3英文誌のいずれかに投稿することを条件に、海外研究者を生態学会がスポンサーとなって招聘・実施するシンポジウムを3件は可能にすることが全会一致で承認された。

閉会：以上の議事を終え、16時56分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2023年12月16日

会 長 : 宮下 直 ㊟

監 事 : 瀧本 岳 ㊟

大塚 俊之 ㊟